

地元貢献したい、  
恩返ししたいという思いでアナウンサーに。  
いまも、「郷土愛がすごく強い」と  
よく言われます。

OHK（岡山放送）のニュース番組「OHK Live News 614」や、情報番組「なんしょん？」の木・金曜日で、地域のニュースや情報を伝える森夏美さん。2018年に法学部を卒業し、現在入社2年目です。

法学部では行政を学ぶゼミに所属。「法律の中でも身近な問題が多く、例えば商店街がテーマの時には、どこから公道でどこまで店の看板を出せるかなど、法律の知識と実際の生活が直結して面白かった」と話します。「実務家の先生に学ぶ講義も興味深く、法律の専門知識と生活がどう結びつくのか、毎回「へえーっ」と驚くことばかり。その時にニュースになっていることも法律的な見地を取り上げて説明してくれたので楽しかったですし、それがいま役に立っていると思います」。

在学時代はミスキャンパスでグランプリにも選ばれました。「友達やいろんな方に応援してもらったのですが、グランプリ



あります。勉強とプライベートを両立しやすい香川大学で、やりたいことをブレずにしっかりと学んでください。大学時代に会った仲間とのつながりは、社会人になってからも大切にしたいです。悩んだ時や迷った時にきくと仲間達が手を差し伸べてくれます。」と、メールを送ってくれました。

りという形で皆さんに喜んでもらえる経験ができたことは、自分にとって大きな出来事でした」。こういった経験を積み重ね、森さんは、アナウンサーという小学生からの夢を実現するために動き出します。地元で恩返ししたい、地元を発信したいという思いで、岡山と香川の放送局に絞って就職活動を始めました。アナウンサーになったいま森さんは、地元出身だからこそ深く伝えられることがあると感じるのだそうです。「香川大学のニュースを伝える時も後輩たちが頑

張っているんだなと嬉しくなります。瀬戸内国際芸術祭をテーマとした新年の県知事対談の司会をさせていただいた際に香川大学が作品を出すことを知りました。母校が芸術祭で世界に向かって発信することをすごいと思いました。同時に、自分も香川の良さを発信するという夢を、いま実現しているのだなと実感しました」と話してくれました。

「私はいつも、若い方に香川・岡山でずっと暮らしたい、大学を卒業してもこの地元で就職したいと思ってもらいたいという気持ちで仕事をしています」という森さん。「私がテレビに出ることで、地元でも輝ける、夢は叶うと思ってもらえるよう、頑張りたいです」。

森さんに、本誌を読む若い方たちにメッセージをお願いしました。「大学4年間は長いようで、あつという間に過ぎてしまいます。自分が本当にしたいことを見つけてほしい。そのための時間と環境は十分に



ANNOUNCER

KAGAWA UNIVERSITY'S ALUMNI

地域を見つめ、いまを伝える  
アナウンサーの原点は  
香川でした。

OHKアナウンサー／森 夏美さん（法学部出身 2018年卒）